3) Uehara, S. & Ihobe, H. (2000) Opportunistic hunting by the chimpanzees at Mahale and its impact on mammalian prey populations. Symposium Organized by the Max Planck Institute "Behavioural Diversity in Chimpanzees and Bonobos" (June 2000, Seeon, Germany). Abstracts p. 29.

ー和文ー

1) 濱井美弥 (2000) 野生チンパンジーの育児中のメスの社会関係 ー パーティへの参加状況についてー. 第16回日本霊長類学会大会 (2000年7月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3) : 281.
2) 松村秀一 (2000)「広く浅いつきあい」を生み出すものームーアモンキーのグルーミング・パターンー. 第16回日本霊長類学会大会 (2000年7月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3) : 283.
3) 森明雄 (2000) 幸島に棲む極端に小さな群の土地利用と社会構造. 第 16 回日本霊長類学会大会 (2000年7月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3) : 267.
4) 岡本暁子 (2000) ムーアモンキーの群れの分裂, 第16回日本霊長類学会大会 (2000年7月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3) : 258.
5) 岡本暁子 (2000) 協力関係の維持にはたす punishment と apology の役割. 日本動物行動学会第19回大会 (2000年11月, 彦根). 講演要旨集 p. 63.
6) 田中伊知郎 (2000) ニホンザルのシラミ卵押収における食物（シラミ卵）と知識のトレードオフ. 第16回日本霊長類学会大会 (2000年7月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3) : 285.
7) 田中伊知郎 (2000) ニホンザル幼児におけるシラミ卵押収の許容: 知識の引き出し. 第54回人類学会大会 (2000年11月, 東京). Anthropological Science 109 (1) : 83.

社会構造分野

加納隆至・大澤秀行・鈴木　晃・杉浦秀樹[1)]

＜研究概要＞

A) ボノボ (*Pan paniscus*) の分布と生態的特性（文部科学省科学研究費補助金国際学術研究）

(1) コンゴ森林における野生ボノボの社会及び行動の研究

加納隆至・橋本千絵[2)]・田代靖子[3)]

コンゴ民主共和国（旧ザイール）ジョル地区ルオ保護区ワンバ森林のボノボの継続調査を行っている。本年度は渡航自粛勧告のため現地調査はできなかったが、過去に収集された資料に基づき行動の分析を行った。

(2) タンザニアのルクワ地方のチンパンジーの研究

加納隆至

アフリカでのチンパンジー南限のルクワ地方において、新しい巣を初めて発見し、生存の証拠は確実なものとなった。また、ルクワのチンパンジーはサバンナ植生には造巣しないという、特異な習性をもっている可能性がある。

(3) ウガンダのカリンズ森林におけるチンパンジーと他種霊長類の生態学的研究

橋本千絵・田代靖子・加納隆至

食物生産量と社会的因子がチンパンジーの集団編成パターンにどのような影響を与えるかを調査した。また、哺乳類コミュニティの中でチンパンジーの占める生態的地位について研究すると共に、霊長類とその他の哺乳類の採食生態と環境利用に関するデータを分析した。特にロエストモンキーを対象に、採食生態のデータを分析した。

B) 中央アフリカ乾燥サバンナおよび多雨林における霊長類の社会生態学的野外研究 <文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (A) (2)>

大澤秀行

カメルーン北部のカラマルエ国立公園におけるパタスモンキーとミドリザルの野外研究を1986年以来行っている。パタスモンキーの雄による単雄群の乗っ取りの過程を観察した。また雄の乗っ取りの後に生じる群れ外劣位雄の侵入の過程とかれらの交尾行動について資料を収集した。

C) 移入タイワンザルの生息状況と雑種化の現状の研究

大澤秀行

和歌山市周辺に生息する移入タイワンザルの生息状況の調査を1998年から行っている。調査は集団遺伝分野、ニホンザル野外観察施設の教官および所外研究者との共同研究である。

D) インドネシア・カリマンタン島の野生オランウータンの生態研究と保護活動

鈴木　晃

7月にインドネシア・ジャカルタで「オランウータン生態と保護」に関して、同国森林省のシンポジウムで講演を行った。本年度6-7月、11月、2-3月にクタイ国立公園にてオランウータンの野外調査を行った。

E) ニホンザルの個体群動態の研究

栗田博之[3]・杉浦秀樹・大澤秀行

高崎山の餌付け集団を対象に、初期成長と初期死亡率について分析した（栗田）。またセンサス資料からは人口学的諸変数を求め、個体群動態の研究を進めている（大澤）。野生群の金華山、屋久島西部海岸地域（杉浦）、愛知県三河地方（大澤）にて、個体群動態の継続調査を実施した。

F) 社会関係の研究

高橋弘之[4]

金華山の野生ニホンザルを対象に、泊まり場でのハドリング行動を分析した。

G) 母親的行動とホルモンの研究

Massimo Bardi[5]

霊長類研究所ニホンザル放飼群を対象に、母性ホルモンと母親的行動の関連を研究した。

H) 性行動の研究

高橋弘之

金華山の野生ニホンザルを対象に、オスの繁殖戦略に関して研究した。

I) 野生チンパンジーのメス・オス間社会行動

松本晶子[2]

霊長類の多くは恒常的な両性集団を形成する。この特徴がどのように進化してきたかを明ら

かにするため、離合集散という社会システムを有するチンパンジーを対象にメス・オス間社会行動を様々な角度から分析した。

J) 野生チンパンジーの狩猟・肉食行動の研究

保坂和彦[4)]

タンザニア・マハレ山塊国立公園のチンパンジーの狩猟・肉食行動に関する野外調査を実施した。特に、チンパンジーが他種哺乳類に遭遇したときの反応を記録した。また、再生実験のために同所的に棲息する哺乳類の音声資料を収集した。

K) 野生オランウータンの保全のための遺伝学的・採食生態学的および繁殖生理学的研究

高橋弘之

オランウータンの野外研究に好適な調査地を選定した。東カリマンタン州スブル地区ではネストと母子1組を直接観察できたが、97～98年の大規模森林火災で森林が深刻な被害を受けていた。一方、西カリマンタン州ブトゥン・カリフン国立公園には非常に良好な状態で森林が残存しており、ネストと新しい食痕も確認したため、後者を調査地に決定した。

L) インドネシア東カリマンタン州におけるテナガザルの保全生物学的研究

岡　輝樹[4)]

テナガザルのペア型社会が大規模森林火災被災によってどのような影響を受けたのかを明らかにするため、行動生態学的な研究を行った。被災後に観察された異なるペア間の非敵対的行動の頻度は植生回復に伴って減少し、一方で敵対的行動の頻度が増加した。テナガザル社会に見られるなわばり制は環境条件に大きく左右されるものであることが示唆された(文部科学省科学研究費補助金及びCOE拠点形成)。

<研究業績>

論文

—英文—

1) Fujita, S., Mitsunaga, F., Sugiura, H. & Shimizu, K. (2001) Measurement of urinary and fecal steroid metabolites during the ovarian cycle in captive and wild Japanese macaques, *Macaca fuscata*. American Journal of Primatology 53 (4) : 161-176.
2) Oka, T. & Takenaka, O. (2001) Wild gibbons' parentage tested by non-invasive DNA sampling and PCR-amplified polymorphic microsatellites. Primates 42 (1) : 67-73.
3) Sugiura, H., Saito, C., Sato, S., Agetsuma N., Takahashi H., Tanaka T., Furuichi T. & Takahata, Y. (2000) Variation in intergroup encounters in two populations of Japanese macaques. International Journal of Primatology 21 (3) : 519-535.

—和文—

1) 橋本千絵・古市剛史 (2000) 動けない個体に対する同群の個体の攻撃と保護ーヤクシマザルの事例. 霊長類研究 16 (1) : 17-22.

---

1) 2000年8月 1日着任 2) 研修員 3) 大学院生 4) 日本学術振興会特別研究員 5) 文部科学省国費外国人留学生

2) 保坂和彦・松本晶子・Huffman M. A.・川中健二 (2000) マハレの野生チンパンジーにおける同種個体の死体に対する反応．霊長類研究 16 (1) : 1-15.

総説

－英文－

1) Sugiura, H. (2001) Vocal exchange of coo calls in Japanese macaques. In: Primate Origin of Human Cognition and Behavior (ed. Matsuzawa, T.). Springer-Verlag, Tokyo, pp. 135-154.

—和文—

1) 橋本千絵・早川祥子・Heui-Soo Kim・竹中修 (2000) 非侵襲的試料を用いた PCR 法による性判別について：チンパンジー，ボノボ，ニホンザルの分析．霊長類研究 16 (2) : 133-138.

報告・その他

－英文－

1) Furuichi, T. & Hashimoto, C. (2000) Ground beds of chimpanzees in the Kalinzu Forest, Uganda. Pan Africa News 7 (2) : 26-28.
2) Furuichi, T. & Hashimoto, C. (2000) Post-workshop modeling report. In: Bonobo Conservation Assessment Workshop Final Report (eds. Coxe, S., Rosen, N., Miller, P. & Seal, U.). Conservation Breeding Specialist Group (SSC / IUCN), Apple Valley, pp. 47-51.
3) Matsumoto-Oda A. (2000) Site report: Chimpanzees in the Rubondo Island National Park, Tanzania. Pan African News 7 (2) : 16-17.
4) Suzuki, A. (2000) Orangutans return to Indonesia. IPPL News 27 (2) : 10.
5) Suzuki, A. (2000) On population and conservation of orangutans in Kalimantan. p.31, Department of Kefutanan, Jakalta.

—和文—

1) 小田亮・松本晶子・田代靖子・五百部裕 (2000) 和歌山県における猿害とニホンザルの分布：目撃例報告からの群れ分布推定の試み．霊長類研究 16 (1) : 23-28.
2) 鈴木晃 (2001) オランウータンを守れ．千葉日報 2001 年 1 月 13 日.

著書

—和文—

1) 大澤秀行 (2000) サルの人口学.「霊長類生態学－環境と行動のダイナミズム」(杉山幸丸編). 京都大学学術出版会，pp. 251-272.

学会発表等

－英文－

1) Bardi, M., Shimizu, K., Fujita, S., Borgonini-Tarli, S. & Huffman, A. (2000) Hormonal correlates of maternal style in captive macaques. The 16th Annual Meeting of Primate Society of Japan (July 2000, Nagoya). Primate Research 16 (3) : 256.
2) Bardi, M. Petto, A. J. & Borgognini, S. (2001) Behavioural predictors of parental success. The XVIIIth Congress of the International Primatological Society (Jan. 2001, Adelaide, Australia). Abstracts p. 244.

3) Bardi, M., Shimizu, K., Fujita, S. & Borgognini-Tari, S. (2001) Maternal behavior and hormonal correlates in macaques. The XVIIIth Congress of the International Primatological Society (Jan. 2001, Adelaide, Australia). Abstracts and Programme p. 447.
4) Dupain, J. (2000) The effect of logging on bushmeat hunting in the Democratic Republic of Congo. The 3rd SAGA Symposium "Research, Care and Conservation of Great Apes" (Nov. 2000, Inuyama).
5) Dupain, J. & Van Elsacker, L. (2000) A bushmeat market study in the Democratic Republic of Congo: monitoring a large area? The 3rd SAGA Symposium "Research, Care and Conservation of Great Apes: Current states and future directions" (Nov. 2000, Inuyama).
6) Dupain, J., Auzel, P. & Van Elsacker, L. (2001) Great Ape socio-ecology in a Community forest: possibilities for conservation in Cameroon? The XVIIIth Congress of the International Primatological Society (Jan. 2001, Adelaide, Australia). Abstracts and Programme p. 109.
7) Matsumoto-Oda, A. (2000) Chimpanzee female-male friendships and female-female competition as reproductive strategy. "Symposium on Behavioural Diversity in Chimpanzees and Bonobos" (Aug. 2000, Seeon, Germany).
8) Matsumoto-Oda, A. & Oda, R. (2000) Chimpanzees in the Rubond Island National Park, Tanzania. The 3rd SAGA Symposium "Research, Care and Conservation of Great Apes" (Nov. 2000, Inuyama).
9) Nakagawa, N. Ohsawa, H. & Muroyama, Y. (2001) Life history of a wild group of west African patas monkeys *Erythrocebus Patus*. The XVIIIth Congress of the International Primatological Society (Jan. 2001, Adelaide, Australia). Abstracts and Programme p. 462.
10) Ohsawa, H. (2001) Types of group supplanting in patas monkey. The XVIIIth Congress of the International Primatological Society (Jan. 2001, Adelaide, Australia). Abstracts and Programme p. 180.

－和文－

1) 古市剛史・橋本千絵・田代靖子 (2000) カリンズ森林における果実生産量とチンパンジーの植生利用の季節変化. 第16回日本霊長類学会大会 (2000年7月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3) : 262.
2) 橋本千絵・古市剛史・田代靖子 (2000) 何がチンパンジーのパーティーサイズを決めるのか：パーティーサイズの評価方法と決定要因の検討. 第16回日本霊長類学会大会 (2000年7月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3) : 263.
3) 松本晶子・小田亮 (2000) ルボンド島国立公園のチンパンジー. 第3回サガ・シンポジウム「大型類人猿の研究・飼育・自然保護－現状と未来－」(2000年11月, 犬山).
4) 松本晶子・林由佳子・村上博・森友彦・小田亮・前田典彦・熊崎清則・清水慶子・加納隆至・松沢哲郎 (2000) チンパンジーの膣由来の臭気物質と発情周期. 第16回日本霊長類学会大会 (2000年7月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3) : 290.
5) 大澤秀行 (2000) 和歌山の移入タイワンザルに対する対応の基本. 自由集会「移入マカク類の生息の現状と対応策」第16回日本霊長類学会大会 (2000年7月, 名古屋).
6) 杉浦秀樹・藤田志歩・斉藤千映美 (2001) ニホンザルにおける群れの広がりの推定. 第48回日本生態学会 (2001年3月, 熊本). 講演要旨集 p. 179.
7) 田代靖子・古市剛史・橋本千絵 (2000) ウガンダ・カリンズ森林の哺乳類バイオマスと霊長類による環境利用について. 第16回日本霊長類学会大会 (2000年7月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3) : 263.